

10月コメ販売減少加速～家庭用・業務用ともに価格の下落進行

農水省はこのほど、10月の米穀販売事業者（年間玄米仕入数量5万トン以上）によるコメ販売数量・販売価格の動向を集計して発表した。家庭向け販売数量は前年同月比とともに一昨年同月比も減少に落ち込んだ。業務用も8カ月ぶりに前年割れとなっている（表①参照）。

小売事業者（家庭用）向け販売数量は一昨年同月比では今年1月の7.6%増から、9月の1.2%増まで連続して上回っていたが、10月は0.8%減と、減少に転じた。

家庭用向け販売は前年同月比では1月・5月・8月に前年を上回っていたが、これ以外の月では前年割れで推移。新型コロナウイルス感染拡大に対応した緊急事態宣言が解除された9月末の直後の10月には前月より3.3ポイント低い前年同月比96.3%にまで落ち込んでいる。

一方、中食・外食（業務用）向け販売数量は、一昨年比では1月の14.4%減から10月の8.5%減まで、減少傾向のまま推移してきた。ただし減少率はやや緩和する方向に変化してきている。緊急事態宣言が解除された後の10月には、減少率が1.2ポイント緩和した。

業務用向け販売数量は前年同月比で見た場合、昨年の飲食店の営業自粛などによる需要の急激な減少からの反動で、今年3-9月は前年を上回って推移してきた。緊急事態宣言解除後の10月に需要回復への期待感が持たれたものの、10月前年比0.5%減となりほぼ前年並みながらも前年を下回る結果に終わっている。

家庭用と業務用の合計では、一昨年同月比では90%台の半ば～後半で推移してきた。前年同月比では4～9月が前年を上回って推移してきたが、10月は前年割れに落ち込んでいる。ふるさと納税の返礼品に加え、家族・知人からの無償入手（いわゆる縁故米）や生産者直売が増えている可能性がある。

一方、販売価格の動向をみると、小売事業者（家庭用）向けは前年同月比97.3%だった1月以降、前年割れで推移している。3年産新米が出揃ったとみられる10月には年初以来最低水準の前年比93.3%となっており、下落に加速がかかった感がある（表②参照）。

中食・外食向け（業務用）販売価格は、1月の前年比97.9%から10月の95.0%にかけて下落が進行。下落率は2倍半近くに拡大している。

表①：販売数量の動向
(前年同月比)

2021年	小売事業者	中食外食	販売合計
1月	106.5%	87.0%	97.0%
2月	95.7%	87.5%	92.2%
3月	84.2%	102.6%	91.1%
4月	92.0%	121.2%	102.5%
5月	108.1%	115.3%	111.0%
6月	98.9%	103.8%	100.9%
7月	98.9%	105.5%	101.6%
8月	101.1%	100.1%	100.7%
9月	99.6%	101.8%	100.5%
10月	96.3%	99.5%	97.7%

表②：販売価格の動向
(前年同月比)

2021年	小売事業者	中食外食
1月	97.3%	97.9%
2月	96.4%	96.9%
3月	95.9%	96.3%
4月	95.2%	96.6%
5月	95.1%	96.8%
6月	95.0%	96.2%
7月	94.3%	95.6%
8月	95.0%	95.0%
9月	94.0%	95.6%
10月	93.3%	95.0%